



写真1 SP5土層断面



写真3 SX36出土軒丸瓦



写真2 SX36瓦出土状況(北東から)



写真4 SX36出土軒丸瓦瓦当接合状況

辻井廃寺

—第42次発掘調査報告書—



SP27と塔心礎(北西から)

報告書抄録								
ふりがな	つじいはいじーだい42じはくつちようさほうこくしょー							
書名	辻井廃寺 ー第42次発掘調査報告書ー							
シリーズ名	姫路市埋蔵文化財センター調査報告							
シリーズ番号	第114集							
編著者名	福井 優							
編集機関	姫路市埋蔵文化財センター							
所在地	〒671-0246 兵庫県姫路市四郷町坂元 414番地1				TEL (079) 252-3950			
発行年月日	令和3年(2021年)3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
つじいはいじ 辻井廃寺	ひょうごけんひめじし 兵庫県姫路市 つじいちょうめ781番ほか 辻井一丁目784番他	28201	020162	34° 51′ 04″	134° 40′ 07″	2020.10.16 ～ 2020.10.21	48.0m ²	宅地造成
	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		遺跡調査番号		
	寺社跡	奈良時代	柱穴、性格不明な落ち込み	瓦		20200320		

例言

1. 本書は、姫路市が株式会社赤鹿地所の委託を受けて実施した、姫路市辻井一丁目784番 他に所在する辻井廃寺の発掘調査報告書である。
2. 現地調査及び整理作業、報告書の編集は、姫路市教育委員会生涯学習部埋蔵文化財センターが実施した。
3. 発掘調査で得られた出土遺物、図面、写真等は姫路市埋蔵文化財センターにおいて保管している。

凡例

1. 発掘調査で行った測量は、世界測地系(測地成果2000)に準拠する平面図直角座標系第V系を基準とし、数値はm単位で表示している。
2. 本書で用いる標高は、東京湾平均海面(T.P.)を基準とし、使用する方位は世界測地系の座標北である。
3. 土色は、小山正忠・竹原秀雄編2003『新版 標準土色帳 25版』日本色研事業株式会社に準拠した。

姫路市埋蔵文化財センター調査報告 第114集

辻井廃寺ー第42次発掘調査報告書ー

編集 姫路市埋蔵文化財センター
〒671-0246 兵庫県姫路市四郷町坂元 414番地1
発行 姫路市教育委員会
〒670-8501 兵庫県姫路市安田四丁目1番地
発行日 令和3年(2021年)3月31日
印刷・製本 松尾印刷株式会社
〒671-0222 兵庫県姫路市別所町小林494

2021

姫路市教育委員会

1 調査に至る経緯

姫路市辻井一丁目 784 番他において宅地造成が計画された(図 1)。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地である辻井廃寺(県遺跡番号 020162)に該当する。そのため、事業の実施にあたり株式会社赤鹿地所より文化財保護法第 93 条の届出がなされ、姫路市教育委員会生涯学習部文化財課において遺跡の取り扱いについての協議が行われた。辻井廃寺では、これまでに 41 次にわたる発掘調査を実施し、多くの成果を得ている(大谷 2010 他)。今回はそれら既往の調査成果を確認調査に代えることとし、発掘調査の通知に基づき、工事の掘削により遺跡が影響を受ける下水道管の敷設箇所および重力式擁壁と一部の道路側溝の掘削範囲を本発掘調査の対象とした(図 2)。調査面積は 48.0 m²である。調査に際しては、姫路市と事業者で委託契約を締結し、姫路市埋蔵文化財センターが現地調査(図 2、第 42 次調査、遺跡調査番号 20200320)や整理作業等を実施した。現地調査は令和 2 年 10 月 16 日に着手し、同年 10 月 21 日に完了した。調査終了後は出土品等の整理作業を行い、本書の刊行をもって事業を完了した。

2 調査の概要

調査地の現況は水田で、標高は約 19m である。図 3 は調査区の各地点の土層断面である。層名は、耕土を 1 層、旧耕土を 3 層とし、遺構埋土と地山は網掛けで表示している。ここで、地山および遺構検出面のレベルについてみると、調査区南東隅に位置する断面①では 18.75m、その北側の断面②では 18.8m、調査地の中央付近にかけて位置する断面③④では 18.85m、その西側に位置する断面⑤では 18.9m、調査区西端に位置する断面⑥では 18.8m をそれぞれ測る。これらにより、当該地においては、中央付近に僅かではあるが地山が高い場所が存在し、そこから東西に向けてごく緩やかに傾斜しているといえる。現存する心礎がこの高まり上に位置することも、旧地形を利用したものと思われる。

今回検出した遺構のうち、その帰属時期を断定できるものは、弥生時代の土坑 2 基、溝 1 条と、奈良時代の柱穴 2 基、性格不明の落ち込み 6 箇所である。ここでは、奈良時代の柱穴 2 基(SP5、SP27)および性格不明の落ち込み SX36～38 についてふれておきたい。

2 区で検出した SP5 の平面形は不整であるが、一辺約 90cm の方形を志向していると思われる。柱痕は径約 20cm、深さ約 40cm が残存しており、その腐食部分に後世の土壌とともに丸瓦、平瓦の小片が落ち込んでいた。図 4 に示すように、北接する 3 次調査でこれに関連する可能性があるピットを検出している。この 2 つの距離は 2.3m で、これらを結んだラインは座標北から 2° 西へ傾いている。なお、丸瓦・平瓦の他に詳細な時期を特定できるような遺物は出土しなかった。

3 区で検出した SP27 は、長辺約 80cm、短辺約 60cm を測り、隅丸長方形を呈する。柱根の掘方は径約 30cm で、全体の深さは 45cm であった。ここからも詳細な時期を比定できる遺物は出土していない。また、SP27 については既往の調査成果と合成すると、5×2 間の掘立柱建物を構成すると考えられる(図 4)。

性格不明の落ち込み SX36 から 38 は、4 区の西端で検出した。平面・断面形、堆積土の様子から人為的に掘削されたものではない可能性が高い。ただ、埋没の最終段階に瓦片が投棄されており(写真 2)、従前の調査では「瓦溜まり」として認識している(姫路市埋蔵文化財センター編 2016 ほか)ことから、ここでも同様に記述しておく。今回検出したこれらの瓦溜まりの大半は丸平瓦の小片であったが、SX36 からは重圏文軒丸瓦が 1 点出土した(図 7、写真 3・4)。二重圏文で中心に珠文を有しており、播磨国府系瓦のうちの本町式にあたる。復元径は約 15 cm を測る。瓦当上半は丸瓦部との接合部分で剥落しており、接合面には布目のうえに斜格子状の刻みを施す(写真 4)。また、外区の側面には范被りの痕跡がみえる。

3 まとめ

以上のように、今回の調査では、SP27 を含む掘立柱建物を検出した。この建物を構成する柱穴の一つが現存する塔心礎に切られているため、寺院の先行遺構と位置付けられている(大谷 2010)。また、これと平行する新たな柱穴列を構成する SP5 も確認することができた。最後に、これら奈良時代の遺構とともに弥生時代中期の土坑等も確認したことを付言しておく。

【引用・参考文献】大谷輝彦 2010 『T07 辻井廃寺』姫路市史編集専門委員会編『姫路市史』第 7 巻 下 資料編 考古 姫路市、鎌谷木三次 1942 『播磨上代寺院址の研究』成武堂、姫路市埋蔵文化財センター編 2016 『辻井廃寺 - 第 32 次発掘調査報告書 -』姫路市埋蔵文化財センター調査報告第 37 集 姫路市教育委員会



図 1 調査地位置図

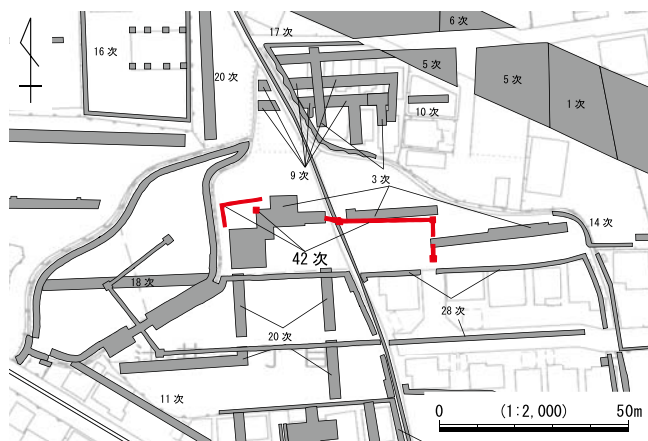


図 2 今回の調査区と既往の調査位置

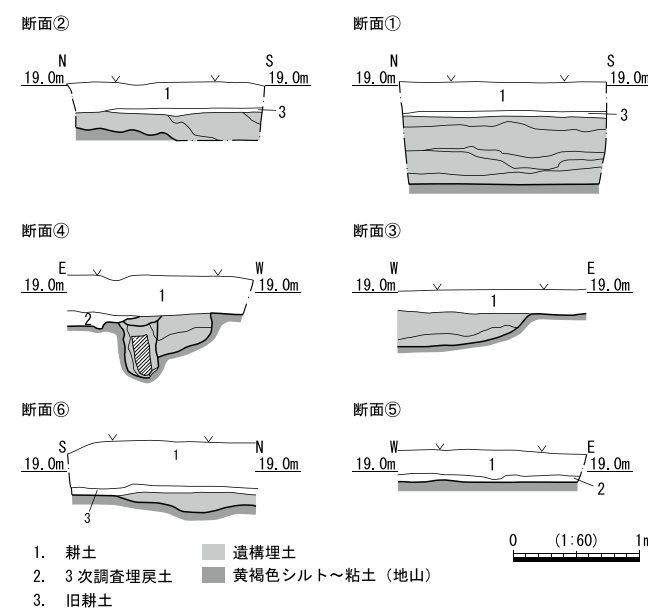


図 3 基本土層図

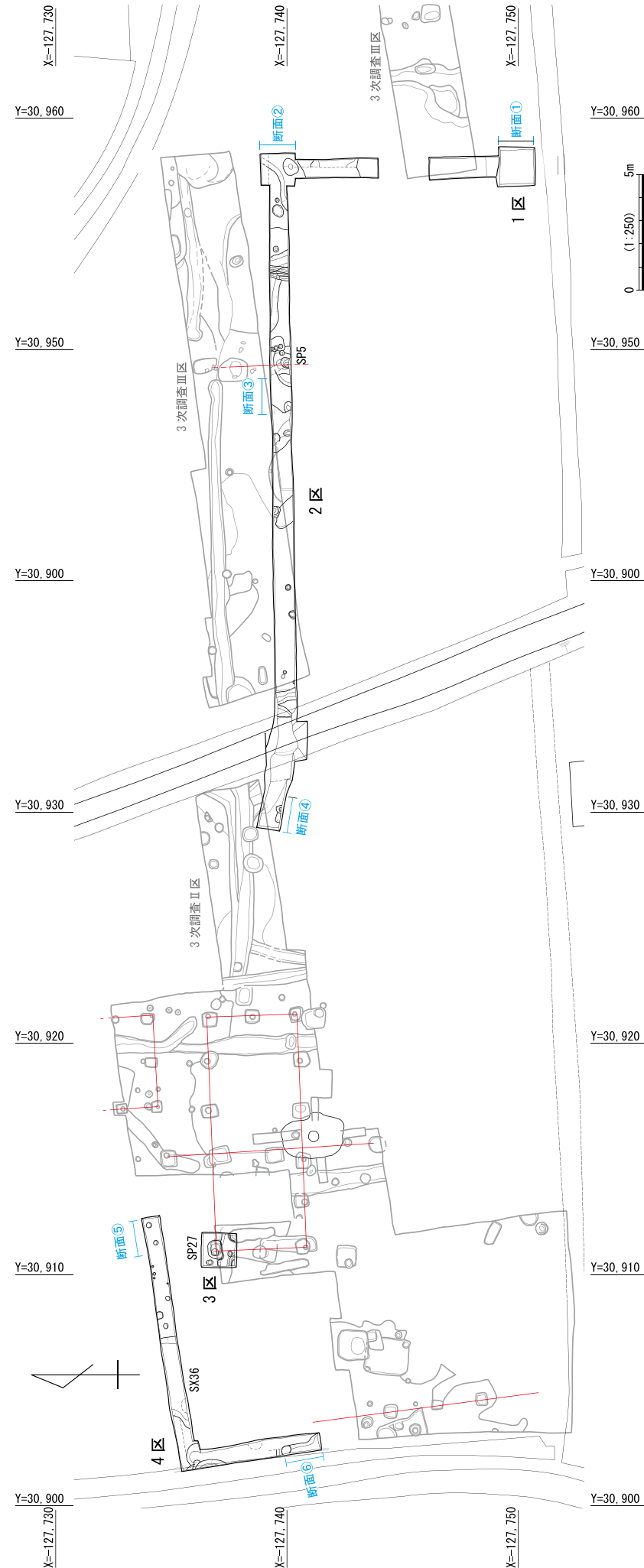


図 4 調査区全体図

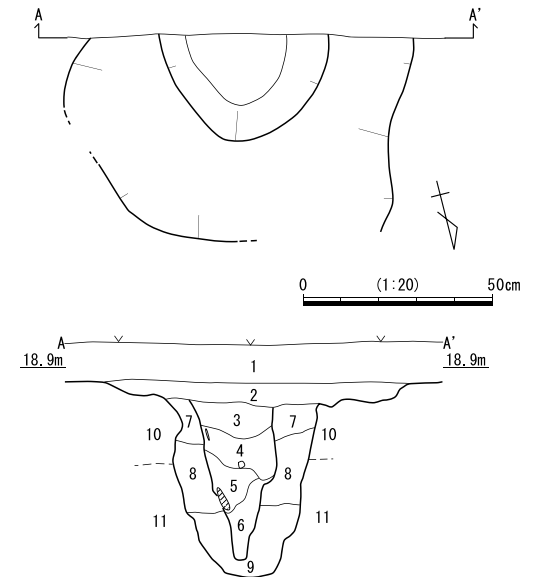


図 5 SP5 平・断面図

1 【耕土】。2 灰黄褐色 10YR5/2 シルト…締まりややあり、10 層を径 3cm 以下のブロック状にやや多く含む【最終埋土】。3 暗灰黄色 2.5Y5/2 シルト…締まりやや強い、比較的均質【柱痕への落ち込み】。4 灰色 7.5Y5/1 シルト…締まりやや強い、瓦片多く含む、径 1cm 以下のクサリレキを多く含む【柱痕への落ち込み】。5 褐灰色 10YR5/1 粘土…粘性やや強い、締まりややあり、径 10cm 以下の円礫や多い、瓦片多く含む【柱痕への落ち込み】。6 褐灰色 10YR4/1 粘土…粘性・締まりやや強い、10 層を径 1cm 以下のブロック状に少量含む【柱痕の可能性あり】。7 暗灰黄色 2.5Y5/2 シルト～粘土…粘性・締まりやや強い、10 層を径 2cm 以下のブロック状に多く含む【掘方埋土】。8 暗灰黄色 2.5Y5/2 シルト～粘土…粘性・締まりやや強い、10 層を径 5cm 以下のブロック状に極めて多く含む【掘方埋土】。9 褐灰色 10Y4/1 粘土…粘性・締まりやや強い、10 層を径 3cm 以下のブロック状にやや多く含む【掘方埋土】。10 にぶい黄褐色 10YR7/4 シルト…締まり強い、均質【地山】。11 灰色 10Y4/2 シルト…色調以外は 10 層に近い【地山】。

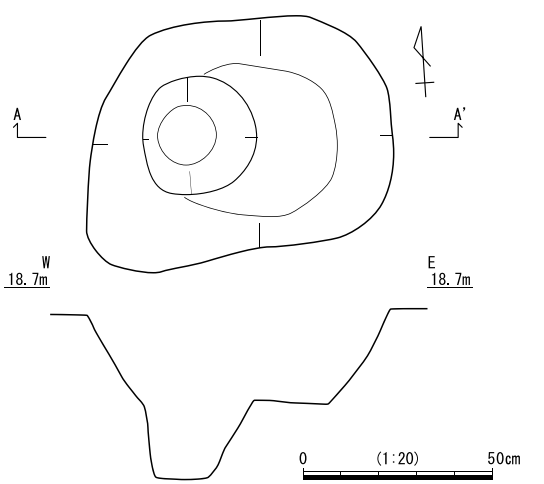


図 6 SP27 平・断面図

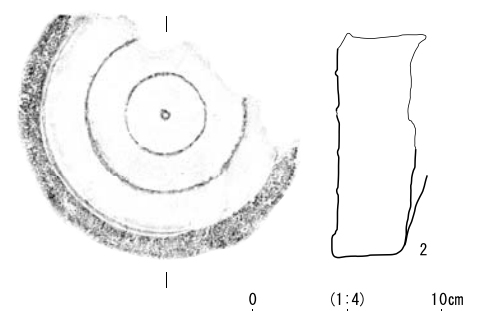


図 7 SX36 出土軒丸瓦